

企画展示

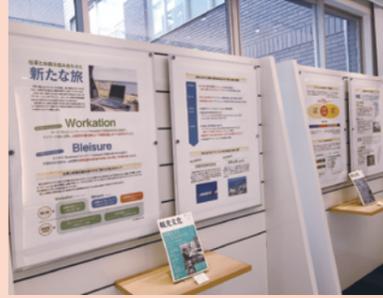
館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

仕事と休暇を組み合わせた
新たな旅 (2021年12月～2022年3月)

コロナ禍によりテレワークが浸透し、働く場所が自宅や外出先など多様な場所へと広がってきており、日本でも「ワーケーション」や「プレジャー」といった仕事と休暇を組み合わせた旅行スタイルが広がっています。

本展示では、働き方の多様化に伴う旅のスタイル変化についてご紹介します。



継続展示中!

1F

- 「旅の図書館オスメの一冊」
- 「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」
- コロナ感染症と観光関連図書
- 「ふるさとパンフレット大賞」受賞作品 (地域活性化センター協力)

B1F

- 「公益財団法人日本交通公社がお勧めする研究書 & 実務書100選」
- 当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」

貴重書ギャラリー 1F

旅行文化変遷史(Ⅱ)～変わり続ける旅のスタイル(戦後編)(2022年1～3月)
その1 1940年代後半～1960年代

江戸時代にはじまった庶民の旅は、明治以降、昭和初期にかけて、鉄道と出版メディアの発達、旅行団体の組織化などを背景に、旅行の大衆化と近代化が進みました。戦後は、高度経済成長、高速交通網の整備進展、モータリゼーションの発達などにより国民の生活に根づき、旅行に求めるものやそのスタイルはより多様化し今日にいたっています。本企画展では「戦後編」のうち、1945(昭和

20)年以降の戦後の復興とともに旅行が復活、高度経済成長の時代とともに大衆化し、マイカー旅行、海外旅行時代へと旅のスタイルが多様化していった1940年代後半から1960年代にスポットをあて紹介します。

コロナ禍が続くこの機会に、旅・観光需要の創出・喚起につながった当時の出来事をたどりながら、日本の旅行文化史を振り返ってみてください。



Information

「蔵書のすべて」を改訂しました

当館では、蔵書の概要を来館者にわかりやすくご紹介するため、案内資料「蔵書のすべて」をご用意しています。2016年の移転・リニューアル後の蔵書の大幅な増加、分類の一部見直し等をふまえ、このたび「蔵書のすべて」の改訂版を作成しました。ご来館の際には、ぜひご利用ください。



定期刊行物発刊のご案内

『旅行年報2021』を発売しました

日本人やインバウンドの旅行市場をはじめ、観光産業、観光地、観光政策などについて、各種統計資料や、当財団が実施した独自の調査結果をもとに、直近一年の動向を概観しています。今回は特に「新型コロナウイルス感染症の流行と日本人の旅行」を設けて、独自調査に基づく解説を行っています。



『観光文化251号』

(特集: 国際スポーツイベントと地域振興) を発売しました

昨年の夏には「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されました。日本においてスポーツを中心に地域づくりをしようという動きには約30年間の蓄積があります。今号では、長い年月をかけて地域のスポーツ振興や国際交流事業に取り組んできた5つの地域に、取り組みの歴史、現状と課題、今後の展開などを寄稿いただきました。



たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 18

2022年1月号



『旅』1931年1月号表紙



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

公共図書館や専門図書館との連携イベントを実施 (2021年10～12月)

図書館界にとって秋はイベントのシーズンです。当館も昨年10月から12月にかけて様々なイベントに参加しましたが、その中から主なものをご紹介します。

千代田区立千代田図書館 コンシェルジュと巡る神保町ツアー 「神保町で世界旅行気分」編 (2021年10月9日(土))

千代田図書館には図書館コンシェルジュがいることをご存じですか。そのコンシェルジュが定期的に開催している人気イベントに「千代田図書館コンシェルジュと巡る神保町ツアー」があります。この神保町ツアーは、トークショーと街歩きツアーの2部構成で、今回のテーマは「神保町で世界旅行気分」。

第1部では、当館副館長が出演し、旅・観光の歴史や日本人初の海外観光旅行、とっておきの旅をするための図書館活用術などを図

書の紹介を交えお話しさせていただきました。

第2部の街歩きツアーにも参加しました。テーマに合わせて様々な国の洋書等を扱う古書店を巡るコースの設定で、コンシェルジュが自ら調べた情報をもとに街の歴史ポイントなどを織り交ぜてご案内いただき、神保町の魅力を存分に感じることができました。地域の図書館は、地域の魅力を引き出す情報の宝庫であることを実感しました。



【ちよびたブログ】

<https://chiyoda-dokusho.jp/blog/2021/10/post-445.html>

「航空と宇宙」定例講演会&航空クラブ卓話会 (2021年12月8日(水))

当館と同じ港区にある様々な専門図書館の中で、特に観光と関わりの深い図書館の一つが航空図書館です。同館を運営している日本航空協会では、「航空と宇宙」という定例講演会を長年開催していますが、昨年12月の定例講演会では、同協会と当館の共催により、「旅」をテーマにしたオンラインによる講演会を開催させていただきました。

メインスピーカーには、JTBパブリッシングの小松田淳氏をお招きし、「そろそろ行き

たい!～達人から学ぶ旅、「旅行ガイドブック」が出来るまで」と題して、旅行ガイドブックの歴史や代表的な「るるぶ情報版」が出来るまでの裏話、2022年の推しスポットと旅プランのご提案など大変興味深いお話をいただきました。

最後に、航空図書館とともに当館のご紹介をさせていただきましたが、今後も旅・観光と航空に関わる情報の提供や魅力の発信に、両館で連携・協力していきたいと思ひます。

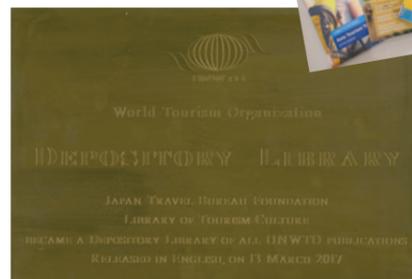


定例講演会チラシ

UNWTO寄託図書館 (Depository Library) について

当財団は、UNWTO (国連世界観光機関) の賛助会員としてその活動を支援しています。昨年11月11日(木)には、UNWTO本部職員でアジア太平洋部の地域担当専門官の Oriane Derrier氏をお招きし、当財団研究員を対象とした講演会を開催しました。講演会ではUNWTOの理念や組織、日常業務の概要に加え、職員の専門性やバックグラウンド、特設テーマの設定方法等について伺うことができました。

また、当館は2017年3月にUNWTOの寄託図書館 (Depository Library) の認定を受けています。これはUNWTOの活動の普及を目的に、刊行物を広く公開する図書館で、国内では2館、世界では53館が認定されています。今後とも、UNWTOを通して国際的な観光に関する情報を収集するとともに、少しでも観光の研究や実務にお役立ていただけるよう公開してまいります。



旅の図書館オススの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します。



1 団体旅行の文化史 旅の大衆化とその系譜

山本志乃 著 創元社 2021年9月 A5判 332頁
団体旅行には「旅行の画一化」を拡大させたといったネガティブな言説が目立つが、誰もが安全に旅ができる「旅の大衆化」が進んだことも確かである。日本社会に団体旅行が定着していく過程から旅の大衆化と旅行業の進化を読み解く。

2 「築地ホテル館」物語

日本初の外国人専用本格的ホテルをつくった幕末維新の男たち
永宮和 著 原書房 2021年11月 四六判 243頁
慶応4年に開業した日本初のホテル「築地ホテル館」に、幕末維新の男達は何を夢見たのか。幕臣・小栗上野介、清水喜助(清水建設)、三野村利左衛門(三井組)を軸に描く知られざるドラマ。

3 アドベンチャートラベル大全

水口猛・実重貴之・田中大輔 著
やまどころBOOKS 2021年8月 A5判 204頁
自然・文化を深く体験・体感できるアドベンチャートラベルは、アフターコロナ観光に革新をもたらす可能性を秘めた起爆剤の一つとして注目されつつある。日本の先駆けである北海道での取り組みを牽引してきた執筆陣が徹底解説。

4 どこでもオフィスの時代

人生の質が劇的に上がるワーケーション超入門
一般社団法人みつめる旅 著 日経BP 日本経済新聞出版本部
2021年10月 A5判 230頁
ワークスタイルに「旅」を取り込めば、もっと自由に生きられる。場所にとらわれず働くことで、自分や企業の新たな可能性を発見できる。変わる働き方をフェーズに沿って解説。自分に合った働き方や社員の働く環境を考えられる一冊。

5 アフターコロナの観光学

COVID-19以後の「新しい観光様式」
遠藤英樹 編著 新曜社 2021年12月 四六判 232頁
コロナ禍で露わになった「観光とは何か」。バーチャル観光、オンラインツアー、地域密着型の持続可能な旅など、デジタルテクノロジーの進展ともなう(社会の変容)により、観光そのものが変容しようとしていることを明らかにする。

6 人が活躍するツーリズム産業の価値共創

島川崇・神田達哉ほか 共著 成山堂書店 2021年12月 A5判 204頁
ツーリズムに関わるすべての人が、それを喜びとし、価値をともに創発している環境を作るために大切なのは、価値を「共創」することである。ツーリズム産業に従事する人、これからこの業界に身を置きたいと願う人へのエールとなる書。(出版社HPより)

7 一九四〇 命の輸送

安田亘宏 著 彩流社 2021年12月 四六判 332頁
ナチス・ドイツの苛烈きわまる迫害を、(命のビザ)を手に必死に逃げ延びたユダヤ人の果てしない旅路の陰には、使命に燃える、若き日本人・ツーリスト・ビューロー職員たちの尽力があった。歴史の表舞台には上らない、ユダヤ難民救出のもう一方の真実を描く物語。(出版社HPより)

古書探訪 — “古書はいつもあたらしい” —

古い時代の出版物、記録資料である古書は、先人の知の遺産ともいえ、時には現代に生きる私たちに新しいヒントを与えてくれます。当館が所蔵する戦前を中心とした旅行・観光に関する古書・機構書(約3,000冊)の中から、とっておきの資料をご紹介します。

Map of Japan for tourists(初版)

The Welcome Society of Japan, 1897

日本の外客誘致の歴史のひも解くとき、喜賓会 (The Welcome Society of Japan) はその幕を開けた最初の組織として欠かせない存在である。同組織は、渋沢栄一が中心となり1893年(明治26)年に設立され、同じく渋沢らの尽力により日本の迎賓館ホテルとして誕生した帝国ホテル(1890年開業)を拠点にして、外国人観光客の接遇のために活動した。

『Map of Japan for tourists』は、喜賓会が作成した外

国人観光客向けの英文の日本案内地図で、1897年(明治30)年に初版が発行された。日本的な図案の木版表紙の折り畳み式のもので、地図の裏面の日本郵船や富士屋ホテルなど当時の日本を代表する外客誘致に関わる企業の広告も見応えがある。その後喜賓会は、国をあげて外客誘致に取り組むべく1912(明治45)年に設立されたジャパン・ツーリスト・ビューロー(当財団及びJTBの前身)にその役割を譲り、1914(大正3)年に解散した。

